

中央大学法曹会執行部名簿（平成一七・一八年度）

一、正・副幹事長・事務局長・次長

幹事長 大高満範（東弁）

副幹事長 福家辰夫（東弁）

同 林 勘市（一弁）

同 原 誠（二弁）

同 橋本和夫（裁判所）（平成一七年五月～平成一八年三月）

同 一宮和夫（裁判所）（平成一八年四月～平成一九年五月）

同 山下輝年（検察庁）（平成一七年五月～平成一七年九月）

同 千葉雄一郎（検察庁）（平成一七年一〇月～平成一八年三月）

同 錦織 聖（検察庁）（平成一八年四月～平成一九年五月）

事務局長 坂巻國男（東弁）

事務局次長 水庫正裕（東弁）

同 阿部 鋼（東弁）

同 若江健雄（一弁）

同 加戸茂樹（二弁）

同 一宮和夫（裁判所）（平成一七年五月～平成一八年三月）

二、會計監事

同 同

三角比呂（裁判所）（平成一八年四月～平成一九年五月）

森本和明（檢察庁）

大谷隼夫（東 弁）

横溝高至（一 弁）

中央大学法曹会役員名簿（平成一七・一八年度）

一、顧問・参与

(1) 顧問

東弁（四名）

小池 金市

瀧澤 國雄

堂野 達也

安原 正之

一弁（五名）

倉田 雅充

設楽 敏男

信部 高雄

松家 里明

柳澤 義信

二弁（五名）

大西 保

坂本 建之助

田宮 甫

野宮 利雄

松井 宣

(2) 参与

東弁（九名）

奥原 喜三郎

小竹 耕

木川 統一郎

児島 平

笹原 桂輔

篠原 千廣

鈴木 秀雄

深澤 武久

藤井 光春

一弁（2名）

竹村 照雄

依田 敬一郎

二弁（1名）

近藤 三代次

二、幹事（○は常任幹事）

東弁（二四八名）

神谷 咸吉郎	片岡 義広	加賀見 清七	小名 弦	大西 清	大川 實	大澤 一正	榎本 逸郎	宇田川 濱江	井上 聡	伊藤 まゆ	市川 照己	石川 秀樹	飯塚 孝	荒井 洋一	阿部 三郎	秋知 和憲
亀井 忠夫	勝野 義孝	笠井 浩二	小名 雄一郎	大森 八十香	大高 満範	大澤 成美	榎本 峰夫	内野 経一郎	岩井 重一	伊東 正	井手 慶祐	石田 茂	○飯沼 允	有馬 幸夫	阿部 正博	秋元 修二
川勝 勝則	河東 宗文	笠原 克美	小野 紘一	小川 信明	○大谷 隼夫	太田 孝久	海老原 覚	内丸 義昭	上野 廣元	○稲田 寛	伊藤 和夫	石葉 泰久	五十嵐 二葉	安藤 貞一	雨宮 眞也	浅見 昭一
川瀬 仁司	金井 孝雄	柏谷 秀男	小山田 辰男	奥野 善彦	大塚 一夫	太田 治夫	遠藤 晃	伯母 治之	植松 功	井上 章夫	伊藤 茂昭	○石渡 光一	池田 治	安藤 良一	新井 清志	我妻 真典
菅 重夫	○金澤 恭男	春日 寛	海法 幸平	小澤 治夫	大辻 正寛	太田 秀夫	○及川 昭二	海野 秀樹	宇佐見 方宏	井上 勝義	伊藤 孝雄	石山 治義	石井 芳光	○伊井 和彦	荒井 清壽	阿南 三千子

長	登	津	地	田	高	高	関	○鈴	白	島	佐	佐	近	小	黒	楠	木	○岸
井	坂	村	田	堰	橋	城	口	木	石	田	藤	藤	藤	林	須	本	村	
導	真	政	良	良	信	俊	博	康	道	修	義	正	智	秀	雅	博	晋	
夫	人	男	彦	三		郎		洋	泰	一	行	八	孝	正	博	志	介	巖
中	内	寺	千	○田	多	高	芹	鈴	水	島	真	佐	○坂	小	厚	楠	木	北
野	藤	井	葉	中	賀	木	澤	木	津	田	田	藤	卷	林	井		村	村
博	貴	一	憲	中	健	國	博	正	正	種	淡	隆	國	元	乃	忠	康	一
保	昭	弘	雄	三	三	郎	雄	貢	臣	次	史	男	男	治	武	義	定	夫
中	中	寺	千	田	竹	高	○曾	須	菅	清	志	佐	佐	小	古	久	木	北
村	島	口	葉	中	内	崎	田	藤	沼	水	賀	藤	々	林	賀	保	村	村
治	義	真	宗	敏	義	一	多	正	隆	紀	剛	真	木	喜	政	英	美	忠
郎	勝	夫	武	夫	則	夫	賀	彦	志	代	一	喜	敏	浩	治	幸	隆	彦
中	中	寺	塚	田	竹	高	○園	○瀬	菅	白	志	佐	笹	小	小	倉	久	木
村	陳	村	越	中	原	谷	田	川	野	井	澤	藤	浪	山	林	田	木	戸
生	秀	温		英	孝	圭	峯		谷	典			雅	明	大	利	口	久
秀	夫	雄	豊	雄	雄	一	生	徹	信	子	徹	勝	義	勲	彦	介	光	義
中	中	天	○堤	高	田	高	高	関	鈴	○白	穴	佐	佐	紺	小	黒	草	木
村	根	坂		氏	崎	橋	石	口	木	井	倉	藤	瀬	野	林	岩	川	下
浩	茂	辰	淳		信	崇	昌	德	修	正	秀	む	正		信	哲		健
紹	夫	雄	一	佶	幸	雄	子	雄	司	明	男	つ	俊	稔	明	彦	健	治

一弁（一一一名）

伊藤忠敬
○飯田数美
青木一男

伊藤尚
池内雅利
青木康國

今村敬二
池田達郎
赤井文弥

○岩田豊
石田裕久
新谷謙一

梅澤和雄
市野澤裕子
安西愈

吉野徹
湯川將
山崎哲
安岡清夫
本島信
○村上昭夫
水庫正裕
松崎勝一
藤村義徳
平野雅幸
羽成守
野口和俊
縄稚登
中村茂八郎

吉原大吉
○横山昭
山田俊昭
矢田英一郎
百瀬和男
村上徹
溝口敬人
松嶋英機
船戸実
平松暁子
馬場栄次
橋本幸一
新津勇七
中村裕二

脇田輝次
好川弘之
山田八千子
矢吹誠
森公任
村田裕
溝口喜文
松本泰次
堀岩夫
平松和也
林史雄
長谷川武弘
西込明彦
中村玲子

吉澤敬夫
山地義之
山岸憲司
森徹
村田豊
源光信
圓山司
堀合辰夫
福家辰夫
平野智嘉義
八戸孝彦
西林経博
中山忠男

吉田幸一郎
山本剛嗣
山口博
森田太三
村田由美子
三羽正人
○御園賢治
牧野英之
藤井真人
平野大
服部邦彦
二瓶和敏
永松榮司

大崎康博 ○奥平力 金澤優 川辺直泰 窪木登志子 斎藤勝 柴田徹男 杉本秀夫 鈴木秀一 竹川忠芳 遠山信一郎 中野正人 羽田忠義 ○深澤守 藤原朋奈 宮崎万壽夫 守屋文雄 山本繁樹 葭葉昌司

大西昭一郎 ○小口隆夫 加毛修 川村延彦 小林美智子 齋藤祐一 島田一彦 杉山英巳 鈴木則佐 田中茂 友野喜一 奈良道博 林勘市 福吉實 辺見紀男 村下憲司 八木清文 山本隆幸 米林和吉

大山圭介 加藤慎 川崎直人 木戸弘 小屋敏一 酒屋伸夫 下山田聰明 鈴江辰男 鈴木英夫 鈴木邊勝巳 田邊泰介 ○豐田泰介 西坂信 平手啓一 藤本英介 細田良一 元木徹 矢部耕三 山本卓也 六田文秀

翁川雄一 金崎淳 川添丈 木ノ元直樹 後藤仁哉 酒屋憲郎 ○白河浩 鈴木和憲 高橋正則 綱取孝治 仲居健康 丹羽健介 廣渡鉄 藤本猛 松尾紀良 森田昌昭 ○山崎源三 横溝高至 若江健雄

荻原静夫 金澤均 川原史郎 木村宏 今野昭昌 篠原由宏 ○神洋明 鈴木喜久子 田口邦雄 寺本吉男 中井淳 萩原隆平 深澤隆之 藤本博史 萬羽了 森寿男 山田滋 吉川壽純 ○若林秀雄

渡邊洋一郎

二弁（一二二名）

相川俊明

渥美央二郎

石井芳夫

市毛由美子

今村健志

上原康弘

小野道久

門屋征郎

釘澤知雄

齋藤誠二

篠崎敬

滝田裕

田中美登里

辻居幸一

奈良ルネ

○中村鉄五郎

藍谷邦雄

阿部一夫

石川幸吉

伊藤圭一

入倉卓志

遠藤英毅

香川一雄

北村晋治

小海正勝

坂本行弘

杉井静子

竹上英夫

谷直樹

戸谷雅美

中川隆博

中吉章一郎

相原英俊

新井弘二

石川宏

井手大作

○岩瀬外嗣雄

岡田弘隆

嘉本益巳

木村雅暢

小林幸夫

○鈴木誠

田代則春

田宮武文

土井隆

中川久義

行方美彦

青木二郎

新井嘉昭

○石黒竹男

井野賢士

岩本公雄

尾崎毅

笠井直人

清塚勝久

駒沢孝

猿山達郎

鈴木雅芳

○多田武

伊達俊二

○栃木敏明

中所克博

西川忠良

浅見精二

池田眞一郎

石黒康

今中美耶子

上野操

小川恵司

加戸茂樹

切貫総子

齋喜要

穴戸金一郎

高野清

田中宏

千葉昭雄

友部富司

中津靖夫

西本邦男

渡	吉	山	山	○村	向	松	堀	羽
邊	田	本	岡	山	井	田	内	尾
三	和	和	義	芳	惣	政	幸	芳
樹	夫	敏	明	朗	太	行	夫	樹
男					郎			

○吉	山	山	森	村	丸	槇	原
野	本	崎		上	山	枝	
純		司	誠	智	輝	一	
一郎	實	平	一	裕	久	臣	誠

萬	雪	山	諸	村	三	○增	播
	下	下	永	重	木	田	磨
幸	伸	清	芳	慶		徑	源
男	松	兵	春	一	茂	子	二
		衛					

脇	横	山	安	村	水	松	船
坂	井	田	井	野	嶋	井	越
治	弘	明	桂	守	幸	る	
國	明	文	之	義	子	子	廣
			介				

和	吉	山	柳	村	宮	松	古
田	岡	田	澤	山	山	田	屋
敏	讓	忠		幸	雅		龜
夫	治	男	泰	男	行	啓	鶴

中央大学法曹会／各種委員会委員名簿（平成一七・一八年度）

一、人事委員会

委員長 中津 靖夫（二弁）
委員（東弁） 浅見 昭一 石渡 光一 岸 巖 久木野利光
委員（二弁） 荻原 静夫 松家 里明
委員（二弁） 田宮 甫 中津 靖夫

（裁判所） 橋本 和夫
（検察庁） 青沼 隆之

担当幹事長 大高 満範（東弁）
担当事務局長 坂巻 國男（東弁）

二、広報委員会

委員長 根岸 清一（二弁）
委員（東弁） 植松 功 瀬川 徹 高石 昌子
委員（一弁） 川崎 直人 窪木登志子 福吉 実

委員（二弁） 河野 浩 土屋耕太郎 根岸 清一
（裁判所） 寺尾 洋

(檢察庁) 山上 秀明

担当副幹事長 原 誠 (二弁)

担当事務局 加戸 茂樹 (二弁)

三、会則検討委員会

委員長 元木 徹 (一弁)

委員 (東弁) 稲田 寛 河東 宗文 瀬川 徹 森 徹

(一弁) 木戸 弘 元木 徹

(二弁) 新井 嘉昭 辻居 幸一

(裁判所) 橋本 和夫

(檢察庁) 青沼 隆之

担当副幹事長 林 勘市 (一弁)

担当事務局 若江 健雄 (一弁)

四、法職教育検討委員会

委員長 奈良 道博 (一弁)

委員 (東弁) 安藤 良一 石井 芳光 倉田 大介 小林 信明 清水紀代志

鈴木 康洋 曾田 多賀 安田 隆彦

(一弁) 島田 一彦 奈良 道博 矢部 耕三 横溝 高至

(二 弁) 門屋 征郎 中津 靖夫 水嶋 幸子 山本 和敏

(裁判所) 橋本 和夫 寺尾 洋

(検察庁) 青沼 隆之 山上 秀明

担当副幹事長 林 勘市 (一 弁)

担当事務局 阿部 鋼 (東 弁)

若江 健雄 (一 弁)

五、大学問題委員会

委員長 堀合 辰夫 (東 弁)

委員 阿部 三郎

荒井 洋一 安藤 良一 石井 芳光 稲田 寛

及川 昭二 太田 治夫 金澤 恭男 神谷威吉郎 木川統一郎

岸 巖 久木野利光 紺野 稔 清水紀代志 白井 正明

菅沼 隆志 鈴木 康洋 鈴木 正貢 高木 國雄 田中 紘三

平賀 陸夫 堀合 辰夫 松崎 勝一 村田 裕 安原 正之

(一 弁)

山岸 憲司 山本 剛嗣 横山 昭 吉田幸一郎 信部 高雄

安西 愈 岩田 豊 大西昭一郎 設楽 敏男 柳澤 義信

田中 茂 丹羽 健介 深澤 守 村下 憲司

若林 秀雄

(二 弁) 新井 弘二 大西 保 門屋 征郎 齊藤 誠二 杉井 静子

多田 武 田中美登里 千葉 昭雄 栃木 敏明 中津 靖夫

村山 芳朗

(裁判所) 橋本 和夫 寺尾 洋

(検察庁) 青沼 隆之 中津川 彰

担当幹事長 大高 満範 (東弁)

担当副幹事長 福家 辰夫 (東弁)

担当事務局長 坂巻 國男 (東弁)

担当事務局 水庫 正裕 (東弁)

六、機構改革実行委員会

委員長 三羽 正人 (東弁)

委員 飯沼 允 大谷 隼夫 菅 重夫 北村 忠彦 白井 典子

(東 弁) 中根 茂夫 圓山 司 三羽 正人

(一 弁) 小口 隆夫 神部 範生 竹川 忠芳 山本 隆幸

(二 弁) 今中美耶子 今村 健志 嘉本 益己 宮山 雅行

(裁判所) 橋本 和夫

(検察庁) 青沼 隆之

担当副幹事長 福家 辰夫 (東弁)

担当事務局 加戸 茂樹（二弁）

七、募金実行委員会

委員長 飯塚 孝（東弁）

副委員長 今井 勝（東弁）

中島 義勝（東弁）

山岸 憲司（東弁）

林 勘市（一弁）

中村鉄五郎（二弁）

根岸 清一（二弁）

事務局 長 三羽 正人（東弁）

事務局 員 好川 弘之（東弁）

担当幹事 長 大高 満範（東弁）

担当副幹事 長 福家 辰夫（東弁）

担当事務局 長 坂巻 國男（東弁）

八、進路指導対策委員会

委員長 山本 昌平

森 徹

内藤 貴昭

松村 卓治

佐藤 雅彦

藤原 力

石橋 克郎	松山 憲秀	金澤 賢一
大川 隆之	池田 友子	中井 淳
渥美央二郎	小川 恵司	加戸 茂樹
河野 浩	田中 宏	井上 朗
岡内 真哉	村上 智裕	亀井 真紀
飯塚 卓也	梅田 欣一	阿部 泰典
内田 喜久	千葉 達朗	遠藤 大助
星野 徹	佐々木泉顕	入江 寛
岡崎 信介	塩澄 哲也	塩見 渉
串田 正克		

(※現在全国に委員を委嘱作業中のため、現時点で委員に就任されている方のみを掲載しました。)

中央大学法曹会役員候補者名簿（平成一九・二〇年度）

（平成一九年五月一〇日承認予定）

正・副幹事長・事務局長・次長

幹事長

奈良道博（一弁）

副幹事長

坂巻國男（東弁）

〃

林勘市（一弁）

〃

山崎司平（二弁）

〃

須藤典明（裁判所）

〃

錦織聖（検察庁）

事務局長

横溝高至（一弁）

事務局次長

藤原力（東弁）

〃

阿部鋼（東弁）

〃

川添丈（一弁）

〃

熊谷明彦（一弁）

〃

大山圭介（一弁）

〃

秋定和宏（一弁）

〃

土井隆（二弁）

〃

上拂大作（裁判所）

〃

小橋常和（検察庁）

中央大学法曹会各種委員会委員長候補者名簿（平成一九・二〇年度）

（平成一九年五月一〇日承認予定）

人事委員会

大高 満 範（東 弁）

広報委員会

大谷 隼 夫（東 弁）

募金実行委員会

飯塚 孝（東 弁）

進路指導対策委員会

水津 正 臣（東 弁）

機構改革実行委員会

若江 健 雄（一 弁）

法職教育検討委員会

伊達 俊 二（二 弁）

会則検討委員会

千葉 昭 雄（二 弁）

編集後記

法科大学院第一回卒業生向けの新司法試験において、母校は、合格者数第一位という輝かしい成績を収めました。もちろん、従来の司法試験の合格者も出ております。本号の特集の一つは、この合格体験記です。法科大学院の様子も垣間見えますので、ご覧下さい。この成果は、教職員、法人の方々のご努力、そして我が中大法曹会のバックアップの賜物であると存じております。

今後とも、法科大学院だけを出られた方も中大法曹としてお迎えし、切磋琢磨して、母校のプレゼンスを一層高めていくことが肝要でしょうし、少子化の中、母校の伝統ある特徴を輝かせなければならないのだと思います。（それにしても就職、研鑽の問題は頭痛となっておりますね。）

皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

（窪木登志子）

主に、若手会員からの原稿集め担当でした。なるべく今までは中央大法曹会との関わりが少なかった先生にお願いしてみました。いつも同じような先生に同じようなことを書いてもらうのはつまりませんし。本当は、中大ロースクール出身、新司法試験「不」合格者匿名座談会『中大ロースクールのここが問題』というのをやりたかったのですが、試験に落ちた人に声を掛けるのはさすがに難しくて……。

平成一九年度からは、中大出身の修習生の就職のお世話係りをやります。「中央大学出身の修習生を採用しませんか!」をご覧下さい。こういって、就職のできない落ちこぼれの修習生の救済組織かと思われそうですが、そんなことはありません。みんな優秀な修習生です。断言できます。修習生の側も情報がなくて戸惑っているのです。インセンティブをお考えの先生方、是非お声かけ下さい。試しに会って見るだけでも良いですから。

（加戸茂樹）

第一回新司法試験の結果を受け、新司法試験特集については、五名の合格体験記も揃いましたので、先輩に現在の新司法試験についてご理解をいただければ幸いです。

若手法曹、女性法曹の中大法曹会の活動への誘導というテーマについては、今後の当会の活性化を左右する重要問題です。老・壮・青の交流・共働を如何に実現していくべきか。課せられた課題は大きいと思います。

全国に広がりつつある支部活動について、縦と横の連携を更に深く構築していくため、本誌が一助となるようこれからも努力して行かなければならないものと痛感しました。

編集作業中に、中津靖夫前幹事長の急逝という報に接し、中津先生の宿願でもあった中大法曹会の一層の飛躍を霊前にお誓いいたしました。

最後にバタバタして、高千穂印刷所の多大のご協力があった初めて発刊にこぎつけることができました。感謝。

(根岸清一)

中 大 法 曹 第 二 号

平成一九年五月 一日 印刷
平成一九年五月一〇日 発行 (非 売 品)

発行人 大 高 満 範
編集人 根 岸 清 一
発行所 中央大学法曹会
印刷所 株式会社 高千穂印刷所
東京都板橋区向原二一〇—一〇
電話 (三九五六) 六五五〇 (代)